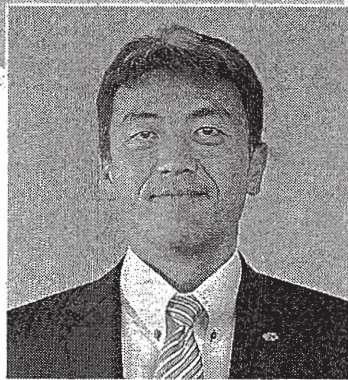


中学校跡地でチョウザメ養殖

板坂 直樹さん



(いたさか・なおき)
 1968年(昭43年)香川県立引田町(現・東かがわ市)生まれ、45歳。86年三本松高校卒業。90年日本大学を卒業後、大阪に拠点を置く大建工業に入社、11年間にわたって営業を担当する。2001年に家業である大協建工に入社、営業部長。04年、36歳で部長の後継者として社長に就任。

内装業の大協建工(高松市)が、2011年に移転した香川県の東かがわ市立引田中学校の旧校舎や敷地を利用して手掛ける複合事業が注目を集めている。5月に卵が高級食材のキャビアになるチョウザメの養殖を始めたほか、家庭科の調理実習室での魚肉加工や、プールを使った水耕栽培も予定する。取り組みの狙いや今後の展望を板坂直樹社長に聞いた。

「理科の実験場」教育効果も

「事業の概要を教えて下さい。」

「養殖場の名称は『東かがわ・つばきキャビアセンター』で、旧体育館に容量7トンの水槽4基を設置し、チョウザメ30匹の養殖を始めた。主産地のカスビ海や黒海では資源保護の観点から取引が規制され、品薄感が高まっている。全国のレストランやホテルに売り込んでいきたい。」

「今後3年間で45ト水槽9基を新たに設置し、6000匹にする。魚が順調に育つように。」

「設備が充実しているという点も大きかった。敷地内に肉の加工工場として十分機能

ある非常用井戸からはチョウザメの生育に必要な淡水がふんだんに入手できる。新鮮な水をろ過循環せずに使うことで、チョウザメの卵や肉質が格段によくなる。通常は塩漬にされることも多いキャビアだが、臭みが少ないため塩分濃度が3%以下の生キャビアとしても提供できる。」

「家庭科の調理実習室やプールも活用できる。調理実習室は少し改装すれば、卵や魚肉の加工工場として十分機能

「引田は日本で初めて魚の養殖に成功したという伝統のある土地だが、高齢化や後継者不足を背景に近年は衰退傾向にある。いま一度、養殖の一大拠点として引田の名を全国に知らしめていきたい。」

「約2割減った。跡地は、割安な料金で市民団体に貸し出したので採算を確保しながら地域社会への還元を目指している。人口減少で今後も公的施設の統廃合が進むなか、同社の取り組みはひとつの参考になりそうだ。」

民間活用、先進例に

〈記者の目〉全国より15年早く少子高齢化が進んでいるとされる四国では、小中学校をはじめ公的施設の統廃合も加速。香川県内の小中学校も30年前に比



べ約2割減った。跡地は、割安な料金で市民団体に貸し出したので採算を確保しながら地域社会への還元を目指している。人口減少で今後も公的施設の統廃合が進むなか、同社の取り組みはひとつの参考になりそうだ。」

をくみ、既存設備を活用することで採算を確保しながら地域社会への還元を目指している。人口減少で今後も公的施設の統廃合が進むなか、同社の取り組みはひとつの参考になりそうだ。」

(高松支局 古賀雄大)